

2026年9月7日

日本教育新聞にめぐみこども園 公開保育  
で発表したエピソードが掲載されました \*

2026年（令和8年）9月7日（月曜日）

（6）

## 幼稚園・保育園

マメ先生が伝える  
保育の  
エッセンス

[165]

〈今回の言葉〉

「小さな子どもにとつ

て、多様なモノ（容器等）

と出会い、触れ、他の環

境（水や砂等）との対話

を何度も繰り返す遊び

は、そのモノ自体が持つ

ている質感（性質や機能）

を探っているのかもしれ

ません。それは、子

どもが主体的に環境

に関わる中で行う遊

びが、いかに探究的

な学びであるかを物

語っているとも言え

大豆生田 啓友・玉川大学教授



るのです」

ある園では、0～2歳

児クラスと園庭をつなぐ

テラスに、いろいろな種

類のプラスチック容器や

空き箱などの廃材を自由

に取り出せるコーナーを

用意しました。すると、

多くの子がさまざまな容

器を取り出して遊ぶ姿が

に持ちやすく、水をすく  
やすい容器を選んでい  
るように思えます。水を  
すくって遊ぶ場合と上か  
ら落ちてくる水を受け止  
める場合で、異なる容器  
を選んでいるようです。  
ハナさんは、そのかご  
に砂場にあるプラスチック  
製のおもちゃを入れ  
て、保育者に「食べて」  
と渡してみたりしていま  
す。さらに、そのおも  
ちゃを水の入ったたらい  
に入れて、沈むのをすつ  
と眺めていたのです。そ  
して、おもちゃがゆつく  
り水の中に沈んでいくこ  
ろを何度も試していまし  
た。他のモノが水に浮か  
んでいるのに対して、こ  
のおもちゃがゆつくり沈  
んでいくのを不思議に思  
ったのかもしれない。  
このように、子どもは  
触れながら、働き掛けを  
変えつつ、そのモノが持  
つ性質などの質感を探っ  
ているのです。それは、  
他の子の姿を見ながら気  
づくこともあります。そ  
のモノが持っている多様  
な機能に気付くにつ、よ  
り良い使い方を探ってい  
るようでもあります。

小さな子どもにとって、  
多様なモノ

探究的な  
学びである  
モノと出会い、環境との対話繰り返す遊び

（容器等）と  
出会い、触  
れ、他の環

見られたのです。テラス

で空き箱を並べたり、缶

や筒を積み木のように重

ねたりするなど、多様な

遊び方が生まれました。

0歳児のハルマ君は、

プラスチックの容

器を選ぶことが多

いようです。テラ

スで水をすくった

り、こぼしたりす

る遊びの場合、手

そのモノの性質によつ  
て、うまくすくい取れた  
り、運べたりすることが  
あります。ハルマ君はそ  
のモノの質感を試しなが  
ら廃材を選んでいたのか  
もしれないと担任保育者  
は話してくれました。  
1歳児クラスでは、園  
庭でさまざまなモノを運  
ぶ遊びが、いかに探究的  
な学びであるかを物語っ  
ているとも言えるのです。

次回は21日掲載

